

中部航空音楽隊の隊員がラジオで魅力を発信



村田 1 士

「たくさんの方に感動や勇気を与えられる演奏を目指して頑張りたい」と意気込んだ。

静岡地本は、今後も各部隊と連携して自衛隊のPRを行っていく。

また、音楽隊員になるための試験について説明するとともに、今後は「たくさんの方に感動や勇気を与えられる演奏を目指して頑張りたい」と意気込んだ。

静岡地本は、今後も各部隊と連携して自衛隊のPRを行っていく。

同音楽隊の任務として「隊員のモチベーションを上げるための演奏」「自衛隊の行事などにおける演奏」「広報のための演奏」の3つを挙げ、北は東北、西は近畿の26都府県で広く活動していることを紹介し、「日本各地でお客様とふれあえることが嬉しい」とやりがいを語った。

次に収録した入隊2年目の村田和彦1等空士は、中学の吹奏楽部で始めたホルンを音楽隊でも担当しており、音楽大学在学中と一緒に演奏した航空自衛隊の音楽隊に感銘を受けてこの道を志したと、入隊したきっかけを語った。

最初に収録したのは、同音楽隊の隊長で、指揮者を務める朽方聡3等空佐。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は7月27日（火）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）において中部航空音楽隊のラジオ収録を行った。

収録したのは、エフエムしみずで毎週水曜日に放送されている「自衛隊TIMES★静岡」。パーソナリティと自衛隊員が軽快なトークで自衛隊の活動や仕事内容、県内のイベント情報などを紹介している番組で、今回は自衛隊のプロの演奏家である音楽隊の隊員2人が出演した。



朽方 3 佐

防衛医科大学校生が母校の掛川西高校を訪問



静岡地本は、今後も入校・入隊者と緊密に連携し、帰郷広報を積極的に実施して自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くしていく。

橋本学生も「自衛隊や防衛医科大学校について知ってもらうことができよかった。先輩にもどんどん受験してほしい。次は制服姿で訪問したい」と嬉しそうに話していた。

静岡地本は、今後も入校・入隊者と緊密に連携し、帰郷広報を積極的に実施して自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くしていく。

話を聞いた教諭は興味深い様子で、「防衛医科大学校と聞いて心配していたが、橋本君の話聞いてイメージが変わった」「受験のことなどを先輩にも伝える機会を設けたい」といった声が上がった。

橋本学生も「自衛隊や防衛医科大学校について知ってもらうことができよかった。先輩にもどんどん受験してほしい。次は制服姿で訪問したい」と嬉しそうに話していた。

在校時の担任で現在は進路課長でもある大場教諭、当時所属していたサッカー部の顧問だった大野教諭、在学中の恩師である片岡教諭と面会し、入校して4カ月間の生活などについて報告した。

橋本学生は、新型コロナウイルスの影響で講義がリモートや課題形式になったこと、生活環境の違いなどに最初は戸惑ったものの、今は生活にも慣れ、先輩や同期とも絆が生まれて楽しく過ごしていると話した。

また、入校してみると一般的な自衛隊のイメージとは違い、自由もあり週末は外泊もできること、生活費や授業料もかからず、給与も支給されるので家族への負担がないことなどを伝えた。

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は8月2日（月）、静岡県立掛川西高等学校（掛川市）において、今春、防衛医科大学校に入校した橋本翔太学生の母校訪問を行った。

これは、長期休暇を利用して学生が母校を訪問し、教職員に現在の生活ややりがいなどを伝え、防衛医科大学校に対する認識と理解を深めてもらうことと実施したもの。

在校時の担任で現在は進路課長でもある大場教諭、当時所属していたサッカー部の顧問だった大野教諭、在学中の恩師である片岡教諭と面会し、入校して4カ月間の生活などについて報告した。

